

学力向上に効果のある取組事例

由布市立石城小学校

②思考力、判断力、表現力等の育成

①思考力、判断力、表現力等の育成を目指した授業実践

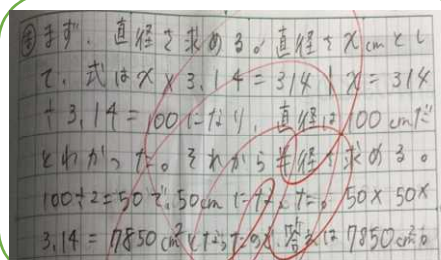
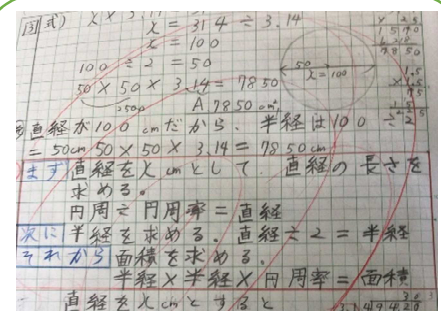
6年生は、1年生の時から徹底反復学習(計算ドリル、学年の総まとめドリルを3回ずつ行うこと)に取り組んでいるため、基礎学力が定着している。しかし、問題は解けるが説明ができないことが課題であった。そこで、考えたことを書いたり、話したりする場面を設定した。

具体的には、授業の話し合う場面で、「まず」「つぎに」「それから」「だから」などの『言い出しの言葉』を書いたプレートを板書に位置付け説明させた。(写真①思考の順序を明確化)

「だって」「なぜ」などの『理由を表す言葉』、「つまり」「そう考えると・・・となる。」などの『結論づける言葉』を用いて説明できるよう指導した。(主に、出し合う場面、振り返りの段階での話し合い活動やノート指導等)

さらに、全体交流の場では、一人の児童にすべてを説明させるのではなく、途中から別の児童に説明させた。タブレット端末等でノートを共有し、全員が参加できるよう支援し、分からない問題でも考える意欲にもつながった。(無解答0人)

①児童のノート(算数)



②家庭学習の取組

- 保護者に宿題の認め印(全学年学校で共通したもの、4月のPTAで意義を説明。)を作成し、6年間、同じ認め印を使用している。学校と家庭で協働して基礎・基本の力が定着するように取り組んでいる。
- 自学ノートの様子を中学に準じたものにして、めあて、ふりかえりを書くように指導している。児童のノートをコピーして、全員に配布し、互いの良さを取り入れ、学びあうようになっている。自学ノートにコメントを入れ、どこがよいか、なぜ良いのかを児童と保護者に具体的に知らせたり、支援を呼びかけたりしている。自学ノートでの復習や調べ学習、活用問題の取り組みが、思考力、判断力、表現力の育成にもつながっている。
- 毎日、朝の会で、日直がスピーチを行い、保護者に協力してもらいながら、新聞記事、ニュース等の情報を整理し、発表している。要旨をまとめたり、自分が考えたことを話す力がついている。

(家庭学習の仕方：

PTA資料より一部抜粋)

◇学習したことをみてあげましょう！

- ・最後まで丁寧にできているか
- ・つまずいている箇所はないか

「認め」をお願いします。

